

2023 年度 決算公告

アクサ損害保険株式会社
代表取締役社長 兼 CEO 田中 勇二郎

2023 年度 (2024 年 3 月 31 日現在) 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
現金及び預貯金	6,546	保険契約準備金	53,584
預貯金	6,546	支払備金	26,892
有価証券	66,568	責任準備金	26,692
国債	7,320	その他負債	7,480
社債	1,012	外国再保険借	509
外国証券	46,074	未払法人税等	701
その他の証券	12,160	預り金	89
有形固定資産	628	未払金	2,109
建物	470	仮受金	3,724
その他の有形固定資産	157	資産除去債務	295
無形固定資産	6,337	その他の負債	51
ソフトウェア	5,862	退職給付引当金	2,071
ソフトウェア仮勘定	475	役員退職慰労引当金	22
その他資産	8,413	賞与引当金	565
未収保険料	499	特別法上の準備金	420
代理店貸	5	価格変動準備金	420
外国再保険貸	1,266	負債の部合計	64,145
未収金	3,492	(純 資 産 の 部)	
未収収益	30	資本金	17,221
預託金	178	利益剰余金	10,510
地震保険預託金	2	利益準備金	4,230
仮払金	2,937	その他利益剰余金	6,279
繰延税金資産	3,111	繰越利益剰余金	6,279
		株主資本合計	27,731
		その他有価証券評価差額金	△ 271
		評価・換算差額等合計	△ 271
		純資産の部合計	27,460
資産の部合計	91,605	負債及び純資産の部合計	91,605

(貸借対照表注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法は次のとおりです。
 - (1) その他有価証券のうち時価のあるものの評価は、期末日の市場価格等に基づく時価法により行っております。なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、また、売却原価の算定は移動平均法に基づいております。
 - (2) その他有価証券のうち市場価格のない組合等の評価は、移動平均法に基づく原価法により行っております。
2. 有形固定資産の減価償却は、定率法により行っております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。
3. 資産に計上している自社利用のソフトウェアの減価償却については、当社内における利用可能期間（5年ないし10年）に基づく定額法によるおります。ただし利用可能期間は適宜見直しを行っております。
4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算は、外貨建取引等会計処理基準に準拠して行っております。
5. 貸倒引当金は、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に基づき、債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき関連部署が一次資産査定を実施し、当該部署から独立した資産査定部署が査定結果を二次査定し、それらの結果に基づいて上記の引当を行っております。
6. 退職給付引当金は、従業員の退職給付に充てるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づいて、当期末までに発生していると認められる額を計上しております。数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により発生の翌事業年度から費用処理することとしております。過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により発生時点から費用処理しております。
7. 役員退職慰労引当金は役員の退職金の支払いに備えるため、内規に基づく当期末の要支給額を計上しております。
8. 賞与引当金は、従業員等の賞与に充てるため、支給見込額に基づいて計上しております。
9. 価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき計上しております。
10. 消費税等の会計処理は、全て税抜方式によるおります。資産に係る控除対象外消費税等は仮払金に計上し、5年間で均等償却を行う処理を継続します。

(重要な会計方針の変更)

当社は、消費税等の会計処理において、損害調査費、営業費及び一般管理費等の費用については税込方式を採用しておりましたが、2023年10月1日から消費税インボイス制度が開始されたことにより、免税事業者、インボイス発行事業者等の登録者毎の区別を行い計算書類の附属明細書中の事業費明細において消費税と従来は消費税であったが新制度下においては消費税とならないものを明確に区別し、より適切に開示するために、損害調査費、営業費及び一般管理費等の費用について税抜方式へ変更しております。

この結果、当該会計方針の変更は遡及適用されますが、株主資本等変動計算書の期首の純資産に与える影響はございません。

11. 保険料、支払備金及び責任準備金等の保険契約に関する会計処理については、保険業法等の法令等の定めによるおります。
12. 金融商品の時価等に関する事項は以下のとおりであります。

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

資産の運用にあたっては、損害保険会社の資産の性格（将来の保険金支払い等に備える準備金に対応）に基づき、安全性、収益性、流動性に十分配慮しながら中長期的に安定した収益の確保を目指すことを運用の基本方針としております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する金融資産は、有価証券では主に国債をはじめとした公社債、外国証券等であります。これらは、それぞれ発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。その他、保険料の収納代行先に対する債権として未収金を有しております。預貯金は高格付けの金融機関での管理であるためリスクは僅少と考えております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社では、資産運用に伴うリスクに関する基本事項を定め、社内外に存するリスクに対処し、顧客の資産、株主資本の維持を図ることを基本原則としております。また、資産運用リスク管理の円滑な運営に資するため、資産運用リスク管理規則・規定を制定しております。資産運用リスクを含めた社内のリスクを管理する機関として「リスク&コンプライアンスコミッティ」を設置し、リスク評価の検証を行っております。金融商品に係る各リスクの管理体制は、以下のとおりです。

(信用リスク)

資産運用部が資産運用規則等に従い信用リスクにかかる有価証券投資を行い、リスク管理部において、格付等の信用情報やエクスポージャー等のモニタリングを定期的に行うことで管理しております。

(市場リスク)

① 金利リスクの管理

有価証券の金利リスクについては、リスク管理部において金利感応度分析等により定期的にモニタリングを行うことで管理しております。

② 為替リスクの管理

為替リスクは原則としてヘッジすることとしております。

③ 価格変動リスクの管理

各資産の投資比率の上限を設定しており、各資産に対する所定のストレスシナリオ下においても、適正な単体ソルベンシー・マージン比率を維持できるよう、リスク管理部が定期的にモニタリングを行っております。

(流動性リスク)

当社では、アクサグループ共通の流動性リスク管理ポリシーに則り、必要な流動性所要額に対して流動性資産が健全な水準を維持できているか定期的にモニタリングを行っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

主な金融資産及び金融負債に係る貸借対照表価額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。未収金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預貯金	6,546	6,546	-
(2)有価証券			
その他有価証券	58,385	58,385	-
資産計	64,932	64,932	-

金融商品の時価の算定方法

- ①現金及び預貯金は全て短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっております。
- ②有価証券については、保有有価証券の時価は、日本証券業協会の公表する価格によっております。一部日本証券業協会で公表されない商品については、取引金融機関から提示された価格によっております。なお、市場価格のない組合等への出資の金額は有価証券に含めておりません。当該組合等への出資の当事業年度末における貸借対照表価額は8,182百万円であります。
3. 主な金融商品の時価の内訳等に関する事項は、次のとおりであります。

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。なお、組合出資金等は、次表には含めておりません。

- (i) レベル1の時価
同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価
- (ii) レベル2の時価
レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価
- (iii) レベル3の時価
重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

① 時価をもって貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

区分	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
有価証券	11,298	47,087	-	58,385
その他有価証券	11,298	47,087	-	58,385
公社債	7,320	1,012	-	8,333
国債	7,320	-	-	7,320
社債	-	1,012	-	1,012
外国証券	-	46,074	-	46,074
外国公社債	-	7,764	-	7,764
外国株式等	-	38,310	-	38,310
その他の証券	3,977	-	-	3,977
資産計	11,298	47,087	-	58,385

- ② 時価をもって貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債
預貯金に関しましては、短期間で決済されるものが大半を占めており、時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

- ③ 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明
活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。国債及び上場投資信託がこれに含まれます。

公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類

しております。主に社債がこれに含まれます。

13. 有形固定資産の減価償却累計額は913百万円であります。
14. 関係会社に対する金銭債権総額は1,266百万円であり、金銭債務総額は508百万円であります。
15. 繰延税金資産の総額は3,221百万円、繰延税金負債の総額は89百万円であります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は21百万円であります。繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳は、IBNR 備金764百万円、異常危険準備金693百万円、退職給付引当金579百万円、未確定債務310百万円、賞与引当金158百万円、自賠償保険責任準備金129百万円、価格変動準備金117百万円、その他有価証券評価差額金105百万円であります。繰延税金負債の発生の主な原因別内訳は、グループ間取引に係る売却益47百万円であります。当年度における法定実効税率は27.98%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の主な内訳は、交際費等永久に損金に算入されない項目0.21%によるものであります。
16. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理
当社は、グループ通算制度を適用しており、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。
17. 支払備金及び責任準備金の内訳は次のとおりであります。

(支払備金)

支払備金（出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く）	28,067	百万円
同上に係る出再支払備金	1,373	
差引（イ）	26,694	
地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金（ロ）	198	
計（イ+ロ）	26,892	

(責任準備金)

普通責任準備金（出再責任準備金控除前）	23,638	
同上に係る出再責任準備金	686	
差引（イ）	22,952	
その他の責任準備金（ロ）	3,739	
計（イ+ロ）	26,692	

18. 重要な会計上の見積りに関する事項は以下のとおりです。

支払備金

保険契約に基づいて支払義務が発生した、又は支払事由の発生の報告を受けていないが保険契約に規定する支払事由が既に発生したと認められる保険金等のうち、未だ支払っていない金額を見積り、支払備金として積み立てております。支払備金は、既発生既報告の支払備金（以下、普通支払備金）及び既発生未報告の支払備金（以下、IBNR 備金）から構成されます。

- (1) 当事業年度の貸借対照表に計上した額

支払備金 26,892 百万円

- (2) 会計上の見積りの内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報

普通支払備金は、損害サービス本部が個別事案の最新の情報に基づき解決見込額の積算を行うことにより、保険契約に基づいて支払義務が発生した保険金等の将来の支払額を見積り計上しています。

IBNR 備金は、支払事由の発生の報告を受けていないが保険契約に規定する支払事由が既に発生したと認められる保険金等について、過去の利用可能な観測期間にわたる支払保険金、普通支払備金及び収入保険料等のデータから算出した仮定を用いた統計的な見積り方法により、インシュアランスソリュ

ーションズ本部が算出した結果に基づき計上しております。

各事象の将来における状況変化等により保険金等の支払額や支払備金の計上額は、当初の見積額から変動する可能性があります。

19. 1株当たりの純資産額は79,726円05銭であります。算定上の基礎である純資産額は27,460百万円であり、その全額が普通株式に係るものであります。また、普通株式の当期末発行済株式数は344千株であります。

20. 退職給付に関する事項は次のとおりであります。

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

なお、当社の従業員の一部が2024年1月1日付けにて兄弟会社であるアクサ生命保険株式会社（以下、「アクサ生命」）へと転籍となりました。これに伴い、2023年12月31日における要支給額をアクサ生命へ支払い、同時に当該従業員に係る退職給付債務もアクサ生命へと移管されております。要支給額と退職給付債務との差額は数理計算上の差異として認識しております。

2. 退職給付に関する事項

(1) 退職給付債務及びその内訳

退職給付債務	△ 1,797	百万円
未積立退職給付債務	△ 1,797	
未認識数理計算上の差異	△ 258	
未認識過去勤務費用	△ 15	
退職給付引当金	△ 2,071	

(2) 退職給付債務等の計算基礎

退職給付見込額の期間配分方法 給付算定式基準
割引率 1.45%
数理計算上の差異の処理年数 5年
過去勤務費用の処理年数 5年

21. 重要な後発事象

当社は、2024年5月24日にアニコム損害保険株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：野田真吾、以下、「アニコム損保」という。）とペット保険事業に関する業務提携契約を締結しました。本契約により、当社は2024年6月30日付けで新規契約の募集・受付を終了し、2024年12月1日以降（2024年11月30日以降に保険契約の満了を迎える方）（予定）の既存契約の更改の取扱いを終了します。自社商品としてのペット保険の引受業務は停止しますが、今後当社は、監督官庁の認可を前提に、アニコム損保の代理店としてペット保険の販売業務を行います。2024年11月30日以降（予定）に保険契約の満了を迎えるお客さまには、アニコム損保の商品をご案内し、ご希望される場合には、同社のペット保険にて、ご契約を継続いただくことができます（補償内容はアニコム損保の約款に基づきます）。このようにして当社からアニコム損保に継続されたペット保険契約については、アニコム損保から代理店手数料を受領することとなります。

なお、当該事業に関する2023年度の正味収入保険料は2,627百万円となり、当該業務提携契約が当社の主要な保険商品である自動車保険へ及ぼす影響はないと見込んでいます。

22. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しております。

2023 年度

2023 年 4 月 1 日から

2024 年 3 月 31 日まで

損益計算書

(単位：百万円)

科目	金額
経常収益	59,597
保 險 引 受 収 益	58,608
正 味 収 入 保 險 料	55,887
積 立 保 險 料 等 運 用 益	49
責 任 準 備 金 戻 入 益	2,671
資 産 運 用 収 益	935
利 息 及 び 配 当 金 等 収 入	814
有 価 証 券 売 却 益	171
有 価 証 券 償 還 益	0
積 立 保 險 料 等 運 用 益 振 替	△ 49
そ の 他 経 常 収 益	52
経常費用	53,873
保 險 引 受 費 用	38,634
正 味 支 払 保 險 金	32,223
損 害 調 査 費	4,439
諸 手 数 料 及 び 集 金 費	7
支 払 備 金 繰 入 額	1,963
そ の 他 保 險 引 受 費 用	0
資 産 運 用 費 用	12
有 価 証 券 売 却 損	0
有 価 証 券 償 還 損	0
為 替 差 損	5
そ の 他 運 用 費 用	6
営 業 費 及 び 一 般 管 理 費 用	15,218
そ の 他 経 常 費 用	8
貸 倒 損 失	4
そ の 他 の 経 常 費 用	3
経常利益	5,723
特 別 損 失	181
固 定 資 産 処 分 損	124
価 格 変 動 準 備 金 繰 入 額	56
税 引 前 当 期 純 利 益	5,542
法 人 税 及 び 住 民 税 額	1,559
法 人 税 等 調 整 額	2
法 人 税 等 合 計	1,561
当 期 純 利 益	3,981

(損益計算書注記)

1. 関係会社との取引による収益の総額は2,199百万円、費用の総額は1,802百万円であります。

2. ① 正味収入保険料の内訳は、次のとおりであります。

収入保険料	57,691	百万円
支払再保険料	1,803	
差引	55,887	

② 正味支払保険金の内訳は、次のとおりであります。

支払保険金	33,838	百万円
回収再保険金	1,615	
差引	32,223	

③ 諸手数料及び集金費の内訳は、次のとおりであります。

支払諸手数料及び集金費	623	百万円
出再保険手数料	616	
差引	7	

④ 支払備金繰入額（△は支払備金戻入額）の内訳は、次のとおりであります。

支払備金繰入額（出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く）	1,850	百万円
同上に係る出再支払備金繰入額	△ 114	
差引（イ）	1,964	
地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金繰入額（ロ）	△ 1	
計（イ+ロ）	1,963	

⑤ 責任準備金繰入額（△は責任準備金戻入額）の内訳は、次のとおりであります。

普通責任準備金繰入額（出再責任準備金控除前）	△ 413	百万円
同上に係る出再責任準備金繰入額	△ 46	
差引（イ）	△ 366	
その他の責任準備金繰入額（ロ）	△ 2,304	
計（イ+ロ）	△ 2,671	

⑥ 利息及び配当金収入の内訳は、次のとおりであります。

預貯金利息	5	百万円
現先取引収益	0	
有価証券利息・配当金	808	
その他利息・配当金	0	
計	814	

3. 1株当たりの当期純利益は11,559円96銭であります。算定上の基礎である当期純利益は3,981百万円であり、その全額が普通株式に係るものであります。また、普通株式の期中平均株式数は344千株であります。なお、潜在株式がないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益は算出しておりません。

4. 損害調査費、営業費及び一般管理費として計上した退職給付費用は188百万円であり、その内訳は次のとおりです。

勤務費用	229	百万円
利息費用	12	
数理計算上の差異の費用処理額	△ 48	
過去勤務費用の費用処理額	△ 5	
退職給付費用	188	

5. 関連当事者との取引

(1) 親会社

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	AXA S. A.	(被所有) 間接 98.69%	保険関係取引	出再保険料 出再手数料 回収再保険金	1,753 610 1,589	外国再保険貸 外国再保険借	1,266 508

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等：取引については、通常行われている取引条件等に基づき決定しております。

(2) 兄弟会社

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の 子会社	AXA General Insurance Co., Ltd (Korea)	なし	資産運用取引	有価証券利息	78	外国証券	5,100

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等：取引については、通常行われている取引条件等に基づき決定しております。

6. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しております。